

議 事 要 旨

| | |
|-------|--|
| 内 容 | 第 2 回福知山市新文化ホール基本計画再検討委員会 |
| 実施日時 | 令和 6 年 11 月 12 日（火） 9:30-11:30 |
| 場 所 | 福知山市役所 全議員協議会室 |
| 参 加 者 | 委員 足立直敬、菊田学美、四方正道、谷垣修身、谷垣均、中村豪文、淵上紫乃、前田竹司、 牧野新子、夜久豊基 アドバイザー 生田創、阪田弘一、渡辺弘 事務局（福知山市） 山本（美）、森田、井上、山本（和）、岩木、梅原、和久 |
| 使用資料 | ・第 1 回福知山市新文化ホールについて考える市民懇談会開催結果報告・他都市ホール事例 ・第 1 回福知山市新文化ホールについて考える市民懇談会 参加者意見一覧 ・第 1 回福知山市新文化ホールについて考える市民懇談会 参加者感想一覧 ・ホールへのアンケート調査結果 |

◆委員の主なコメント

| 委員名 | 主なコメント |
|------|--|
| 委員 A | ・市民懇談会の意見を踏まえながら、再検討委員会で基本計画を作り上げていくスタンスである。あくまで市民の意見を参考にしながら、検討を進めていく。 ・人口規模によって席数を決めるのは難しい。この施設に対してどのような収支になっているか見えるようにお願いしたい。 |
| 委員 B | ・市民懇談会に傍聴したが、やりたいことはマンガラートに反映されているが、フリートークになると場所の議論が多かった。 |
| 委員 C | ・基本理念は変わらずに、規模の問題、場所の問題、などもう少し絞っていかないと練れないと思っている。 ・若者のことも考えてホールを考えていかないといけないと思っている。綾部市にあるホールは自主事業でも 600 席くらいしか埋まらない。そう考えると福知山も自身の市のことを考えて規模を検討する必要があると思う。 ・誰のためのホールなのかを考える必要がある。次世代の子供たちにいい体験をしてもらうような、市民が幸せになる部分をしっかり考えないといけない。 |
| 委員 D | ・どなたに使っていただきたいのかによって施設の場所も考える必要がある。例えば、市民の方に使っていただきたいのであれば、車を持っている人の方が多いと思うので、必ずしも駅に近くないといけないというわけではないと思う。 ・大きなホールを作って有名アーティストが来ることが本当の文化に触れることと言えるのか。自分たちが体験する、身近に感じるところにこそ文化があると感じている。だから規模は 600～1000 席になると考えている。 |

| | |
|------|---|
| 委員 E | <ul style="list-style-type: none"> ・駅直結がいいと思う。利便性重視。例えば、ホテルを建ててそこにホールを入れてしまえばいい。 ・長年使っていくためにはプロに来てもらうことが必要のため、一定の規模は必要であり、プロを呼んだ際にどれくらいの採算性が取れるのかシミュレーションすることで財政に不安を持っている人に対しても説明ができる。 ・近隣のホールが古いので、チャンスだと考えている。 |
| 委員 F | <ul style="list-style-type: none"> ・立地条件、規模、財政を含めて、福知山としてどんな街づくりをするのか、一元的に交流人口が増えるのであれば、そこを掘り下げて考える必要がある。 |
| 委員 G | <ul style="list-style-type: none"> ・近隣のホールを調べたうえで、福知山独自のホールを作るしかない。そのためには人が必要であり、その他市の財政や街づくりのことも考えて文化ホールの検討を行うべきである。 ・運営も考えた規模を考えないといけないと思う。 ・どういったコンセプトで作るかは人によって変わるため、必ずしも大きいものもいいということではない。 |
| 委員 H | <ul style="list-style-type: none"> ・場所は駅のプラザの裏側がいいと考えている。プラザとも共用ができる。 ・有名人の素晴らしい舞台を見て、自分たちもそこに立てる。それが文化だと考えている。 ・営業条件も含めて、儲かるのか儲からないのか考えていけないといけない。 ・有名人がたくさん来る文化ホールを建てることで、文化ホールを柱にして人を呼ぶことができるという事例もある。 |
| 委員 I | <ul style="list-style-type: none"> ・予算を見ながら並行して、議論をする必要があると思う。必要でない人については財政的な根拠をもって話さなければ理解が難しい。他のホールはどのような財政状況についても資料に載せてほしい。 ・市民懇談会の意見を踏まえてということだったので、市民の方々が何を求めているのかももう少し詳しく意見聴取したうえで議論をする必要があると思う。 |
| 委員 J | <ul style="list-style-type: none"> ・平日も稼働をするためには有名アーティストが来るような 2000～3000 席規模のホールが必要だと思っている。 ・人口規模とホールの規模は直接関係ないと考えている。北近畿から人が集まれば大きいホールがあってもいいと考えている。 ・収支のところは切り離せないため、平日どのように稼働していくのかも重要だと考えている。 |

◆アドバイザーの主なコメント

- ・生活に紐づいた意見が多いと感じており、それをどう放出していくかが重要だと考えている。また、人を育てる場所という視点も非常に重要だと考えている。
- ・都心部に建てるものは大きくてもそれなりの集客は見込めるが、郊外だとそれなりのリスクがあるため、コンセプトと差別化が必要。大きいと建築コストもかかるが、改修コストもかなり大きい。
- ・どういう目的で建てるのか、どういう街づくりにしたいのかの両面で議論していく必要があると考える。

議論の趣旨

1. 市民が求める新文化ホール及び再検討のポイントについて

- ・ (委員 H) 市民懇談会と再検討委員会の立場はどうなるのか？
- ・ (委員長) 市民懇談会の意見を踏まえながら、再検討委員会で基本計画を作り上げていくスタンスである。あくまで市民の意見を参考にしながら、検討を進めていく。
- ・ (事務局) 市民懇談会は意見聴衆の場として参加を促している。検討・意思決定をする場が再検討委員会である。
- ・ (委員 J) 市民懇談会の意見を踏まえてここで検討し、再検討委員会の意見は市民懇談会で議論はされるのか。
- ・ (事務局) この場でポイントを整理して、それをワークショップに反映させていく。
- ・ (委員 E) 市民懇談会のアンケートでそもそもホールがいるのか？という意見があるに対して、方向性が決めにくいと思う。福知山市の財源の背景などから反対していると考え、収支でプラスにするホールというような内容から考えていかないと説明がつかない。
- ・ (委員長) 以前、福知山市が作った基本構想を使って、基本計画を作る。あくまでホールを作る前提で話を進めることを考えている。
- ・ (事務局) 必要ないと答えた人は 8%いるのは事実だが、一定の理解をしてもらいながら進める必要がある。大多数の方が、一定理解されている。財源については、まずは場所の議論が出てくると考えており、それに適合できる財源の検討が必要になってくるとしている。
- ・ (委員 G) 2019 年の文化振興基本方針策定の際に文化ホールが必要かどうかの調査を行った結果、必要だと判断したため、市が昨年度、基本計画を発表した。
- ・ (委員 I) 予算を見ながら並行して、議論をする必要があると思う。必要でない人については財政的な根拠をもって話さなければ理解が難しい。他のホールはどのような財政状況かについても資料に載せてほしい。
- ・ (委員 F) 財政の面からでいうと建物の話が出てくる。市民懇談会では前向きな意見が出ているため、話の作りを変えていかないとなかなか難しい。整理の仕方を変えてポイントをまとめた方がいいと思う。
- ・ (委員 C) 基本理念は変わらずに、規模の問題、場所の問題、などもう少し絞っていかないと練れないと思っている。
- ・ (委員 G) 若者が生き生きできる施設という内容を踏まえて、さまざまな施策が行われた。近隣のホールを調べたうえで、福知山独自のホールを作るしかない。そのためには人が必要であり、その他市の財政や街づくりのことも考えて文化ホールの検討を行うべきである。
- ・ (委員長) 新しい文化ホールを作るという前提で話を進めたい。
- ・ (委員 B) 市民懇談会に傍聴したが、やりたいことはマンガラートに反映されているが、フリートークになると場所の議論が多かった。
- ・ (委員長) 機能と規模と場所が大きな協議事項だと考えている。再検討のポイントを出していただきたい。
- ・ (事務局) 再検討のポイントを踏まえて、どういう順番で意見、議論をしていくか整理したいと考えている。
- ・ (委員長) 市民懇談会の意見をベースにしながら、検討ポイントを挙げてほしい。
- ・ (委員 J) 場所について、厚生会館の近隣の土地を駐車場として買ったという記事がでていたが、どういう意図があるのか。すでにそこに立てる予定があるのか。
- ・ (事務局) 厚生会館の駐車場の件は土地の借用の議決が下りた。以前は厚生会館近隣の会社が営業されていないときに、そこを厚生会館の駐車場として使っていたが、それが使えなくなってしまった。そのため、新たに駐車場

の議論が出た。さら地になった民間の土地を借用するという動きはしているが、これは新文化ホールと内容とは別になっている。

- ・ (委員 J) 年内に使えるようにするのか。
- ・ (事務局) 進入路やレイアウトを考えているところで、できるだけ早く使えるように動いている。
- ・ (委員 H) 場所は駅のプラザの裏側がいいと考えている。プラザとも共用ができる。駐車場は地下、一階にする。ホームセンターが撤退する予定もあるので、その場所を駐車場にすることも可能。それぞれを結ぶ直通のルートを作り、行き来がしやすいようにする。
- ・ (委員 E) 駅直結がいいと思う。利便性重視。例えば、ホテルを建ててそこにホールを入れてしまえばいい。複合施設にして、福知山のアンテナのような場所を立てる。業者を呼んで、建ててもらい、業者はテナント収入を得てもらうような方法もあると思う。
- ・ (委員 G) 街づくりについて、安心安全、人命のことを考えながら文化ホールを考える必要があると思う。
- ・ (委員 D) どなたに使っていただきたいのかによって施設の場所も考える必要がある。例えば、市民の方に使っていただきたいのであれば、車を持っている人の方が多いと思うので、必ずしも駅に近くないといけないというわけではないと思う。
- ・ (アドバイザー-K) 岡山市に立てた市民会館は町の端に建てているが、人は来ている。その周りも依然と比べて栄えている。このように岡山市は街づくりと絡めて場所を考えている。どういう目的で建てるのか、どういう街づくりにしたいのかの両面で議論していく必要があると考える。
- ・ (委員 I) 市民懇談会の意見を踏まえてということだったので、市民の方々が何を求めているのかももう少し詳しく意見聴取したうえで議論をする必要があると思う。
- ・ (委員 A) 規模の議論について意見を聞きたい。
- ・ (委員 G) 運営も考えた規模を考えないといけないと思う。
- ・ (委員 J) マンダラートには週末に市民が使うことをイメージしている意見が多く、多目的室や会議室でやるような内容も多い。平日も稼働をするためには有名アーティストが来るような 2000～3000 席規模のホールが必要だと思っている。
- ・ (委員 E) 長年使っていくためにはプロに来てもらうことが必要なため、一定の規模は必要であり、プロを呼んだ際にどれくらいの採算性が取れるのかシミュレーションすることで財政に不安を持っている人に対しても説明ができる。また、市が運営するのか、民間が運営するのか、誰が運営するかによって規模も変わってくる。誰に任せるのかも決めていかないとけない。
- ・ (委員 C) 若者のことも考えてホールを考えていけないといけないと思っている。綾部市にあるホールは自主事業でも 600 席くらいしか埋まらない。そう考えると福知山も自身の市のことを考えて規模を検討する必要があると思う。
- ・ (委員 D) 大きなホールを作って有名アーティストが来るのが本当の文化に触れることと言えるのか。自分たちが体験する、身近に感じる場所にこそ文化があると感じている。だから規模は 600～1000 席になると考えている。
- ・ (委員 H) 照明の仕事を 40 年やっている。有名人の素晴らしい舞台を見て、自分たちもそこに立てる。それが文化だと考えている。しっかりしたものをしっかり作ってあげれば大丈夫だと思う。
- ・ (委員長) 様々な意見が出てきたが、今の意見を踏まえて、M アドバイザーからアドバイスはないか？
- ・ (アドバイザー-M) 生活に紐づいた意見が多いと感じており、それをどう放出していくかが重要だと考えている。また、人を育てる場所という視点も非常に重要だと考えている。議論を通して前向きなものができることが非常に大切だと思う。

- ・ (委員長) 街づくりの観点から、Lアドバイザーからのアドバイスはあるか？
- ・ (アドバイザーL) 規模を決定するためにポイントになるのは、周辺人口、鉄道の乗客数、類似他施設の規模である。都心部に建てるものは大きいてもそれなりの集客は見込めるが、郊外だとそれなりのリスクがあるため、コンセプトと差別化が必要。大きいと建築コストもかかるが、改修コストもかなり大きい。何十億規模の改修タイミングが何回か来るため、それを市民は維持し続けていけるのか。そのために市民が持っているポテンシャルは何なのか。明確にする必要がある。

2. 他都市文化ホールについて

- ・ (委員 H) 周りの会館の条件も考えないと判断ができない。営業条件も含めて、儲かるのか儲からないのか考えていかないといけない。
- ・ (事務局) 市民懇談会から意見が二つ出た。周辺の施設と同じようなものを作ったらニーズがない、条件を踏まえて委員会で検討してほしいという意見があったので、近隣の施設について提案するために情報を整理している。松本は市議会が視察に行く予定、小美玉は昨年視察に行ったため、事例として入れている。
- ・ (委員 G) 人口動態も考える必要がある。コンパクトシティで運営していくために、よそにないものが欲しい。どういったコンセプトで作るかは人によって変わるため、必ずしも大きいものもいいということではない。
- ・ (委員 E) 近隣のホールが古いので、チャンスだと考えている。その内容を事業者に伝え、ヒアリング、営業すればいい。やりたいという業者が出てくると思う。
- ・ (委員 J) 有名アーティストが来る舞鶴市のホールも老朽化しているため、チャンスだと考えている。人口規模とホールの規模は直接関係ないと考えている。北近畿から人が集まれば大きいホールがあってもいいと考えている。
- ・ (委員 F) 街づくりとなっていくと、交流人口を考えていかないと厳しい。生活の知恵が文化をつくる。立地条件、規模、財政を含めて、福知山としてどんな街づくりをするのか、一元的に交流人口が増えるのであれば、そこを掘り下げて考える必要がある。
- ・ (委員 H) 有名人がたくさん来る文化ホールを建てることで、文化ホールを柱にして人を呼ぶことができるという事例もある。それをきっかけに福知山に住んでもらうということが可能だと思う。
- ・ (委員 D) アンケート対象の会館が都心部からどれくらい離れているのか記載してほしい。
- ・ (委員 C) 基本理念の中にあるように、誰のためのホールなのかを考える必要がある。次世代の子供たちにいい体験をしてもらうような、市民が幸せになる部分をしっかり考えないといけない。
- ・ (委員 J) 収支のところは切り離せないため、平日どのように稼働していくのかも重要だと考えている。

3. その他

- ・ (事務局) 複数の財政シミュレーションを用意する必要があると考えている。先ほど、委員よりホームセンターの撤退という話があったが、まだ契約が残っているため、契約の更新や撤退についてはまだ確定していない。
- ・ (委員 H) もしも契約が続くようであれば、そことプラザの裏側に建てたホールとつなげる橋を付ければ、その駐車場からも行き来ができる。600人と1500人では舞台の広さが変わってくるため、大は小を兼ねない。2000席のホールを1000席分だけ、1000席分の料金で貸しているホールもある。
- ・ (委員 A) 人口規模によって席数を決めるのは難しい。この施設に対してどのような収支になっているか見えるようにお願いしたい。
- ・ (委員 J) 貸館運営と、市民のための運営のどちらも成り立つホールにして欲しい。

- ・ (委員 E) PFI が議論になった場合、どのタイミングでヒアリングしていくのか。
- ・ (事務局) 市としての前提を整理した上で、民間事業者の意見を聞く必要があると思っている。
- ・ (委員 G) 人によって想定する著名人が違う。
- ・ (委員 E) 前提条件を決めたうえで民間事業者の意見を聞き、例えば、もしも建設場所が駅前だったら PFI を受けることが出来るということがあれば、その前提が変わることはあるのか。
- ・ (事務局) 場所についてもいくつかのバリエーションがある。完全に一つに絞る前にヒアリングする必要があると考えている。
- ・ (委員 F) 駅前の土地は都市開発で現在の姿がある。その土地をどのように利活用できるか、代替地として制度を変えれば、その土地が出資者の目的変更で使える土地になるのか調べてほしい。
- ・ (委員長) 再検討のポイントについて、委員に対しメール等で再確認や依頼ができるか。
- ・ (事務局) 規模、場合等の意見はいただいたので、それを参考にシミュレーションをしたいと考えている。機能の部分は客席、ステージの話は出てきたが、それ以外の部分もお伝えいただける様式を用意し、連絡いただけるようにしたい。

以上